

< 報道発表資料 >

令和 8 年 7 月 6 日

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

作品が現れる場所を見つめる「CURATION⇔FAIR Kyoto」の開催日決定

古美術から現代美術まで集結するアートフェアと、同時開催の現代工芸展
「工+藝」京都 2026、日本文化の精髓を追体験する特別プログラムを展開



CURATION⇔FAIR Kyoto 実行委員会は、令和 8 年 11 月 6 日（金）から 8 日（日）までの 3 日間（11 月 5 日（木）は報道関係者と招待者のみの内覧会）、京都・西陣エリアを舞台に「CURATION⇔FAIR Kyoto」を開催いたします。

本年は、会場を「大本山 妙顕寺」、「本山 本法寺」、「本山 妙覺寺」の三寺院へと拡大。茶の湯、祈り、芸術の精神が受け継がれる西陣を舞台に、古美術、工芸、近代美術、現代美術まで、時代や分野を横断する厳選された作品が集結します。

また、CURATION⇔FAIR Kyoto 実行委員会は、本年よりユニバーサルアドネットワーク株式会社、京都市に加え、日本経済新聞社を迎えた新たな協働体制へと移行いたしました。行政、メディア、民間が連携し、歴史ある文化財のなかで出会う豊かな鑑賞体験を国内外へ発信してまいります。

【CURATION⇔FAIR Kyoto 開催概要】

- 会期：令和 8 年 11月6日（金）～11月8日（日）

午前 11 時～午後 6 時（11 月 8 日は午後 5 時まで）

※11月5日（木）は、プレス・関係者向けのプレビューを実施します。

- 会場：

大本山 妙頭寺（〒602-0005 京都府京都市上京区妙頭寺前町 514）

本山 本法寺（〒602-0061 京都府京都市上京区小川通寺之内上ル本法寺前町 617）

本山 妙覺寺（〒602-0007 京都府京都市上京区下清蔵口町 135）

- 特別プログラム会場：

しょうざんリゾート京都（〒603-8451 京都市北区衣笠鏡石町 47）

ROKU KYOTO, LXR Hotels & Resorts（〒603-8451 京都府京都市北区衣笠鏡石町 44-1）

渉成園（枳殻邸）（〒600-8190 京都市下京区下珠数屋町通間之町東入東玉水町）

- チケット販売：8月下旬発売予定

- 主催：CURATION⇔FAIR Kyoto 実行委員会

（ユニバーサルアドネットワーク株式会社／日本経済新聞社／京都市）

- 協力：しょうざんリゾート京都、植彌加藤造園株式会社

- オフィシャルホテルパートナー：ROKU KYOTO, LXR Hotels & Resorts

- メディアパートナー：ARToVILLA／芸術新潮

- WEB：https://curation-fair.com/kyoto2026



※ チケット販売日について、最新の情報は WEB を御確認ください

【CURATION⇒FAIR Kyoto の特徴】



- ・京都の寺院を会場とする「CURATION⇒FAIR Kyoto」では、古美術、工芸、近代美術、現代美術を扱うギャラリーが集い、それぞれの視点から選び抜かれた作品を紹介します。
- ・初開催となった昨年は、工芸と近代洋画を手がかりに、日本美術の歴史や価値について深く考える場を提供しました。本年は視点を変え、特に作品とそれらが置かれる環境に目を向けます。
- ・多くのアートフェアでは、均質な展示空間が用意されています。わたしたちは今回、そういった前提をいったん忘れて、寺院との会話を楽しむようにフェアを設計します。会場となる妙頭寺、本法寺、妙覺寺は単なる背景ではありません。時間を蓄積した寺院、刻一刻と姿を変える庭園、そこに現れる展示空間。それぞれ異なる文脈や価値を持つ作品とギャラリスト、それらが渾然一体となって一つの「環境」を作り出し、来場者を包み込みます。
- ・厳かな建造物、情趣溢れる庭、ゆるやかに流れる時間、歴史を感じさせる空気感、そういった環境におかれた作品は従来とはまた違った趣を見せてくれるでしょう。本アートフェアが、来場者にとって豊かな体験となり、作品との思いがけない出会いの場となることを願っています。





CURATION⇔FAIR Kyoto 2025 の展示風景 撮影：柳原美咲

【日本の生活文化に宿る「身体性」を追体験する特別プログラム】

かつての日本において、庭園の鑑賞、茶の湯、生け花、そして生活を彩る工芸は、静的に「見る」だけの客体ではなく、生活や自然の営みと結びついた「身体的な経験」そのものでした。デジタル情報が氾濫し、効率性が求められる現代において、本アートフェアでは歴史的空間に実際に身を置き、自らの五感を用いて深く文化と交わる「身体的な体験」を創出する特別プログラムを展開いたします。

●名勝「巴の庭」を望む特別な呈茶席（会場：本山 本法寺）

本阿弥光悦が作庭した本山 本法寺の「巴の庭」。この国指定名勝である名庭を望む特別な空間にて、裏千家と現代工芸作家の共演による呈茶席を御用意いたします。

お茶席で使用されるのは、隣接する大本山 妙顕寺で同時開催する展覧会「工+藝」京都 2026に出展される気鋭の現代工芸作家たちが手掛けた器の数々です（出展作家は未定）。自然と歴史が幾重にも畳み込まれた名庭を眺めながら、現代の感性が吹き込まれた器を手にとり、一服のお茶を味わう。このプログラムは、伝統の格式と現代の工芸が美しく交差する、本アートフェアならではの特別な体験となります。



（左）本山 本法寺・巴の庭

（右）渉成園で開催された CURATION⇔FAIR Kyoto 2025 呈茶席の様子 撮影：柳原美咲

●本阿弥光悦ゆかりの「鷹峯エリア」で展開する特別な「花会」

(会場：「ROKU KYOTO, LXR Hotels & Resorts」、「しょうざんリゾート京都」)

本阿弥光悦を頼りに西陣エリアからさらに外へ。1615年に光悦が築いた鷹峯の芸術村は、わたしたちの特別プログラムの第二の舞台となります。

「ROKU KYOTO, LXR Hotels & Resorts」および「しょうざんリゾート京都」を会場に、花人・杉謙太郎氏による「花会」パフォーマンスが開催されます。静謐な自然と調和するROKU KYOTOを起点に、「しょうざんリゾート京都」の敷地内を流れる紙屋川沿いの小径や、日本庭園に佇む通常非公開の茶室「玉庵」をめぐるように花会は展開されていきます。まさに古典と現代が交わる貴重な機会をお楽しみいただけます。また、通常非公開のしょうざん迎賓館「峰玉亭」では、杉謙太郎氏による「所望の花」を開催いたします。参加者は、用意された季節の花々の中から、自ら心に響く一枝を選び、その花と向き合いながら生けていただきます。杉氏が一人ひとりに寄り添い、花との対話や見立てを導くことで、それぞれの感性や思いが一つの花として表れる、一期一会の特別な体験です。



(左) 花人・杉謙太郎氏 (右) しょうざんリゾート内の日本庭園に佇む茶室「玉庵」

撮影：奥山晴日

●名勝「涉成園」の庭園をめぐる多彩なプログラム (会場：涉成園 (枳殻邸))

真宗大谷派・東本願寺の飛地境内地として、江戸時代初期にその原型が築かれた名勝・涉成園 (枳殻邸)。変化に富んだ景観は「十三景」と称され、「客人を迎える」という行為そのものに日本的な価値を見出してきた場であり、茶会や詩歌の席を通じて文化が醸成された空間でもあります。

京都駅からほど近いこの涉成園では、江戸時代のおもてなしを体験できる和舟遊覧、庭師の視点で涉成園を案内する庭園ツアーなど、多彩なプログラムを御用意しています。フェア会場の喧騒を少し離れて、是非この特別な時間をお過ごしください。



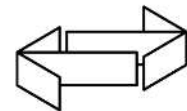
CURATION⇔FAIR Kyoto 2025 和舟遊覧、庭園ツアーの様子 撮影：柳原美咲

●オンラインからオフラインへ：情報とリアルを融合した新たな鑑賞モデルの導入

京都の寺院や庭園は、数世紀にわたり信仰・芸術・日常の「生活」が密接に結びついた結晶として受け継がれてきました。そういった無形・有形の文化財を理解することと、現代的な美術作品を理解することは、わたしたちの感覚において、どこかで繋がっているのかもしれません。そこでわたしたちは本年より、オンラインコンテンツを充実させ、従来の鑑賞に厚みをもたせる新しいプログラムを御用意しています。作品解説や京都文化にまつわるレクチャー、美術史的な講義など、本アートフェアの魅力を多角的に体感していただくためのラインナップを揃えて、来場者のより深い鑑賞の手助けをしたいと考えています。知的好奇心を満たすオンラインでのインプットと会場でのアウトプット＝身体的体験を連動させたハイブリッド型の鑑賞モデルを構築いたします。この新たな試みを継続させ、アートフェアを単発の体験に終わらせず、長期にわたる「文化の物語」として設計してまいります。

【CURATION⇔FAIR Kyoto とは】

CURATION⇔FAIR は、美術における学術的領域とマーケットの往還を促進し、長期的な価値基準の醸成を目指す事業です。令和6年春に東京・kudan houseにて「CURATION⇔FAIR Tokyo」初開催。以降同会場にて毎年開催を重ね、令和7年秋には京都にて「CURATION⇔FAIR Kyoto」を実施。令和8年11月に京都で2回目の開催を迎えます。



CURATION FAIR

CURATION⇔FAIR Kyoto 公式ロゴ

【秋の京都のアートシーンを盛り上げる「京都アート月間」との連動】

京都府・京都市が連携し、10～11月に京都市内各所で開催されるアートイベントを対象に、一体的にプロモーションを展開する取組「京都アート月間」が実施されます。「コラボレーション」をコンセプトにした現代美術の国際的アートフェア『Art Collaboration Kyoto』（令和8年11月7日（土）～11月9日（月）開催）などと連動し、さまざまな施策を通して回遊性を高め、国内外から訪れる来場者に、秋の京都でさまざまなアート体験を楽しんでいただく機会になるでしょう。

【本事業への御支援について：Arts Aid KYOTO】

「CURATION⇔FAIR Kyoto」は、京都市が2021年に創設した文化芸術支援制度「Arts Aid KYOTO」の認定事業です。本事業では、企業版ふるさと納税を活用した文化協賛に御賛同いただける企業・団体を広く募集しています。

御寄付の70%は本アートフェアの運営に直接充当され、30%は若手芸術家支援・子どもの伝統文化教育を目的とした京都全体の文化基金として積み立てられます。企業版ふるさと納税の適用により、寄付額の最大約9割が税控除の対象となります（京都市外に本社を置く企業の場合）。

文化を未来へつなぐ取り組みに、ぜひ御参画ください。

寄付に関する詳細は下記サイトを御確認ください。

Arts Aid KYOTO Web サイト：

https://kyoto-art-donation.com/self/project/aak2026_curationfairkyoto.html

【同時開催 「工+藝」京都 2026】

—工芸の新たな価値や可能性を国内外へ発信する現代作家による工芸展—



(左)「工+藝」2026、東京美術倶楽部での展示風景

(右)「工+藝」京都 2025、渉成園での展示風景 撮影：柳原美咲

令和8年5月に東京美術倶楽部にて開催された「工+藝」2026が、新たな企画を加えた「工+藝」京都 2026として、令和8年11月6日（金）から11月8日（日）までの3日間（11月5日（木）は報道関係者と招待者のみの内覧会）、京都・大本山 妙顕寺にて開催されます。本展は、日本各地で受け継がれてきた伝統工芸の技術や精神性と、現代作家による表現が交差する工芸展です。会場となる大本山 妙顕寺は、豊臣秀吉ゆかりの地としても知られ、桃山文化や茶の湯文化など、器や花器をはじめとする工芸作品とも高い親和性を有しています。歴史と文化が積み重なる大本山 妙顕寺を舞台に、工芸の新たな価値や可能性を国内外へ発信します。

<出展予定作家> 「工+藝」2026 出展作家より

招待作家（7名）（五十音順）：

隠崎隆一、関島寿子、土屋順紀、前田正博、三上 亮、十三代三輪休雪、山村慎哉

推薦作家（50名）（五十音順）：

浅井康宏、伊藤秀人、伊藤 航、内田鋼一、ウチダ リナ、王 雪陽、大室桃生、月山貞伸、加藤高宏、加藤亮太郎、川端健太郎、岸野 寛、木野智史、久米圭子、古賀 充、小曾川瑠那、五味謙二、崎山隆之、佐故龍平、澤谷由子、新宮州三、スナ・フジタ、孫 苗、高橋奈己、田中里姫、佃 眞吾、出和絵理、時田早苗、戸田浩二、豊海健太、新里明士、西村圭功、野口寛斉、橋本雅也、服部真紀子、福村龍太、藤川耕生、本郷真也、増田敏也、榎本佳子、松永圭太、見附正康、満田晴穂、宮入 陽、ミヤケマイ、三輪太郎、牟田陽日、吉田泰一郎、留守 玲、和田 的

※出展作家は変更になる場合がございます。

【「工+藝」京都 2026 開催概要】

- 会期：令和8年11月6日（金）～11月8日（日）

午前11時～午後6時（11月8日は午後5時まで）

※11月5日（木）は、プレス・関係者向けのプレビューを実施します。

- 会場：大本山 妙顕寺（〒602-0005 京都府京都市上京区妙顕寺前町 514）
- 主催：東京美術倶楽部、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会

※本プロジェクトは、文化芸術活動基盤強化基金「クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）」による取り組みの一部として実施しています。

- WEB：<https://kogeigene.com/exhibition/>



文化芸術活動基盤強化基金「クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）」
| 独立行政法人日本芸術文化振興会

※令和8年7月6日時点

<お問合せ先>

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

電話：075-222-4200